様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	第２回吉川市産業振興会議
開　催　日　時	令和７年１月２２日(水)　午後３時３０分から 午後５時００分まで
開　催　場　所	吉川市役所２０２会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 近藤　旭、中村　新一、飯箸　幸弘、西山　亜弥、妹尾　建二 附田 健志、伊藤　健、塩入　英明、井上　義久、道垣内　壮史 川俣　雅代、赤出川　哲宏、小林　千重（産業振興部長）
欠席委員(者)氏名	河野　一晃
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課　課長　染谷　憲市 商工課　消費労政係長　野津　晴子 商工課　商工観光係長　東原　拓哉
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１．開会 ２．あいさつ ３．議事 (1) 事業報告及び今後に向けた事業展開について ①産業フェアについて ②就職説明会・高校生職場見学バスツアー・文化祭出展について (2) 企業ガイドブックについて (3) シニア・ワークネットについて ４．その他 ５．閉会［公開~~・非公開~~］
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	―
傍　聴　者　の　数	１人
会議資料の名称	１．次第 ２．資料１：産業フェア実施報告書 ３．資料２：就職説明会について ４．資料３：高校生職場見学バスツアーについて ５．資料４：企業ガイドブック作成について ６．委員名簿 ７．傍聴要領
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ☑録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	塩入委員、川俣委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	１．開会 ２．あいさつ
市　長	本日は、計画に基づく産業振興施策の進捗状況を説明させて頂くが、今年度の産業フェアは、委員の登壇や出展など本当に素晴らしい内容だった。また、西山委員、伊藤委員にお力添えを頂いたキャンプフェスも、若い世代の意見を取り入れた形で、内容も素晴らしかった。令和7年度に向け、委員の皆様から様々ご意見を頂きたい。本日もよろしくお願いする。
会　長	産業フェアを拝見したが、市長をはじめ、市職員の方々、関係者の皆様、産業振興会議の委員が活躍されていたと感じている。各イベントが委員からの意見もあり盛り上がりを見せる一方で、私としては、委員同士のコミュニケーションに少し物足りなさを感じている。コミュニケーションを活発に行いながら、みんなで盛り上げていきたいと考えている。本日もよろしくお願いする。 会長より会議録署名員として、塩入委員、川俣委員を指名。 両名了承。 ３．議事
市　長	各議事では、提案者や参加された委員からも意見を伺いたいのでご発言をお願いしたい。 (1) 事業報告及び今後に向けた事業展開について ①産業フェアについて
会　長	出展に関する事務局の説明をお願いする。
事務局	参加事業者の交流をはじめ、優れた技術、製品、新鮮な野菜や特産品等の販売を通じて、来場者に市内事業者を知って頂く機会として産業フェアを開催した。委員より様々なアイディアを頂く中で、多くの来場者に繋がったものと考えている。今年度は、屋内18事業者、屋外4事業者に出展頂いた。
委　員	建設業は閉鎖的であり、イベントに参加することで、多くの方と話ができとても有意義であった。特に従業員が喜んでいた印象で、子どもたちが将来、職業を選択する際に、その選択肢が拡がるのではと感じている。今後も積極的に参加していきたい。
委　員	多くの来場者で賑わっていたが、多目的ホールの出展に関する告知があまり無く少し残念に感じた。外で開催していたマルシェを通じて案内頂いた。もう少し周知が行えれば良いと思う。
会　長	次に、事業承継座談会に関する説明をお願いする。

事務局	本座談会は市内事業者の方々に事業承継を身近に考えて頂く機会として開催したもので、M&Aの事例紹介を中村委員に、親族内承継を塩入委員に、また、埼玉県事業承継引き継ぎ支援センター、市長の4者による座談会として開催したものである。
副会長	会議の中で、提案したがまさか自分が登壇するとは思っていなかったので正直驚いた。産業フェアは、コロナで中止となり、そこから少しずつ動き出し、徐々に大きくしていった印象である。とても良い機会であるが、本事業が誰に向けた事業なのかを考えたときに、本来、商工会が中心となるものではないかと感じた。今の形は、市長をはじめ市役所の職員が作っていて、味がありとても良いが、今後の産業フェアを考えた際に、市民目線でやっていくのか、それとも、近隣に対して吉川市をアピールしていくかなど、考える良い時期ではないかと感じる。
委　員	商工会には部会があり、特徴を出しながら取組みを行っているが、事業承継に関しては、相談会は実施していても、今回のような催しは行っていない。誰が仕切るのかという部分に課題が残るのではないか。
委　員	商工会としては、外に向けたアピールよりも、市内に対し、吉川をもっと良くしたいという思いの方が強いのではと感じる。
事務局	続いてものづくりアワード表彰式について、大賞には、株式会社㈱丸石サイクルの電動自転車「Re:BIKE」が選定され、現在、ふるさと納税の返礼品として提供している。なお、ものづくりアワードは、5年に一度の開催とし、次回は令和11年度を予定している。あわせて、女性と農業座談会については、有識者に浅野先生をお招きし、市内で活躍される女性農業関係者の方々、産業振興会議からは、西山委員にご登壇頂いた。農業の第一線で活躍されている関係者の皆様による座談会は、女性の視点で、会場にお越しの家族や出展ブースを巻き込んだ形式で、好評を得ている。
委　員	報告書を見るとわかりやすい。個性的な登壇者9名で、果たしてうまく纏まるのか不安であったが、家庭と仕事の両立部分や女性ならではの視点など、充実した内容で楽しかった。
委　員	当日は、農作業で出席できなかったが、報告書を見たところ、とても良い内容であったと感じる。以前、作成した農業の紹介冊子は男性を取り上げたものであり、女性を取り上げたらということで提案した。この会場にある女性農業者の紹介パネルの内容を想像していたが、座談会という形で実施され、男女共同参画の視点など、とても良いと感じた。例えば、吉川で農業、商業、工業を始めた人を集めて、企業ガイドブックのサブページぐらいで対談集みたいな形で入れても面白いと感じる。
会　長	女性農業者の冊子等を作る予定はあるのか。

部　長	市では、この度の女性と農業に関して3つの事業を組み立てている。1つ目がこのパネル展を6月におあしすで展示したこと。これは、毎年テーマを変え、実施している事業であるが、これまでで最も反響が大きかったと感じている。2つ目は産業フェアの中で座談会を開催。これは、本当に好評であった。これらの事業のどちらにも参加できなかった方の為に、3つ目として、3月広報への掲載や農業委員会だより、市ホームページに報告書を掲載している。最後に、委員から頂いたご提案は、今後の参考とさせて頂きたい。
市　長	先日開催された近隣の農業委員が集まる会合の会場に、パネルを並べ、他市の委員から、お褒めの言葉を頂いた。
事務局	続いて、ものづくり体験教室については、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝え、市内事業者を知るイベントとして開催したもので、ペットボトルを100%使用して再生されたお皿に、下絵として描かれたなまりんの色塗りを行う体験イベントである。
委　員	参加した子どもにとても喜んでいただいた。籾殻でやろうと思ったが、色塗りが難しいと考え、最終的に、ペットボトルの再生皿となった。社員はスタッフとして7名ほど参加したが、とても楽しかったとのことである。
事務局	続いて、同日開催されたキッズタウンについては、多くの子どもたちを呼び込むイベントとなり、出展事業者の協力のもと、職業体験、またお金の流れやまちづくりを学ぶ取組みで、大変好評を得ている。あわせて物販イベントとして、よしかわマルシェは、商業者等により構成される団体で、おあしすの入り口付近を中心に物販、またプロモーション活動を行っていただいた。完売する店舗がある一方で、誘導等の課題について報告を受けている。次年度については、より一層の賑わいの創出に繋がるよう、広く募集をかけて、進めていきたい。
委　員	前回よりも盛り上がった印象である。場内の販売ブースを屋外から案内することで、来場者を館内へ誘導することができた。一部の会員からは、産業フェアへの出展ではなく、ウニクス駐車場で出店したいという意見もあったが、産業フェアに出展して良かったという意見も多く、また、同日開催できたらと考えている。
市　長	委員より今後の方向性について意見があったので話をさせていただく。市の人口は、すでに、減少のフェーズに入っている。大きな開発が1つあり、そこに4,000人ほどの人口を見込むが、それを除くと減少のフェーズとなる。外から人を獲得するのではなく、市内の子どもたち、若者に向け、吉川市をしっかりと伝えるという事を人口施策の柱に考えている。つまり、人口の減少を緩やかにする、あるいは一度市外に出ても、終の棲家は、吉川となるような形で進めていこうと考えている。観光協会のテーマやシティプロモーシ

	ョンも、外に向けてのPRに労力とお金を使うより、市内の人たちに向けて、吉川の価値を高められる形にする。産業フェアも基本的に同じ考えで、市の考えとしては、産業の核を作り、下支えをするところに全力を注ぐ方向性。例えば、事業者が連携できる機会を作る、あるいは、自分たちのやってきたことを言語化する場所を作る。外に向かいPRする部分は、市がやりすぎるのでは無く、やりたいという事業者を支えるという考え。産業フェアを今年のような熱で常に市が先導実施することは難しい。ものづくりアワードも毎年ではなく、数年に1回、集中して内側のエネルギーを高めるというフェアがあり、その合間合間に、外に発信する機会があるというのでも良いのではないか。座談会の様子を見た県や銀行の方々から、登壇者に声がかかって事業継承の話をしてくれないかとなるだけでとても素晴らしく、吉川市の企業の社長がそういう話を外で出来るとなれば、市の下支えにも誇りが持てる。そうした外と内のバランスを取りながら進められればと考えている。
	②就職説明会・高校生職場見学バスツアー・文化祭出展について
会　長	就職説明会等の事務局の説明をお願いする。
事務局	昨年8月におあしすの多目的ホールで就職説明会を開催し、午前中に障がい者求人を、午後は一般等の求人として、合計31事業所と78名の求職者に参加いただいた。採用者は、12事業者で17名である。なお、吉川美南高校をはじめ、越谷総合技術高校や三郷工業技術高校に案内したが参加には至らなかった。
会　長	就職説明会に初めて参加された委員の意見を伺いたい。
委　員	製造業は、なかなか人が集まりにくく、求職者が未経験の場合、用語も含め、わからない事ばかりだと感じる。説明会以降に工場を見学いただき嬉しかった。一般的な求人広告では、そこまで至らないのでありがたいと感じた。弊社は、市内在住者が約3割なので、そういった方とお話できる良い機会になったと感じている。最終的に、事業所を見に来た方は、音信不通となり、もう1名は、高齢の方の採用となったが、試用期間内で終了となりマッチングの難しさを改めて認識した。
委　員	農業という性質上、広告を出しても業務が伝わらないので、対面で話ができる機会はとても良く、また参加したいと感じている。正社員だけでなく、パート求人も可能であることを、もう少し周知できれば、より多くの企業に参加頂けると感じた。
市　長	市では、調整区域の人口減少を食い止めたいと考えており、今年度から3世代同居の住宅補助を始めているので、一つのキーワードにして頂けるとありがたい。
会　長	只今の情報を、就職説明会の会場などで周知してはどうか。

市　長	当時は、まだ、完全にスキームが出来ていなかったので、次回開催時から周知を行っていきたい。
会　長	弊社は、数年参加しているが、年々増加していると感じている。先日、草加市で、草加、八潮、三郷の合同就職説明会があったが、50社で求職者が70名程の参加であったことから、吉川市の頑張りが良く伝わってくる。
市　長	下支えという意味では、以前から、「人材確保」は産業振興会議の中で要望があり、今後も継続して取り組んでいきたい。
会　長	例えば、ひとつの考え方として、高校生は、自分で決められなくて、親御さんが出てくるケースが多いと感じる。その中で、高校の文化祭では、親御さんも来てくれていたので、親子の説明会の実施はどうかと感じた。
事務局	続いて高校生職場見学について報告する。昨年7月に越谷総合技術高校を対象に実施し、テルミックとアポロ工業の2社を見学した。また、明日は、吉川美南高校を対象に、市内4社に分かれ実施する。参加者は就職希望の2年生で、バスだけでなく、徒歩圏内の事業所を選定し実施に向け準備を進めている。
委　員	受け入れの際は、従業員がとても喜んでいた。学生が、目を輝かせながら見学に来てくれる状況が、当たり前に行われればいいなと感じている。企業価値の向上という点では、他の企業もこのような機会があれば、是非挑戦していただきたい。
会　長	訪問する事業所は、学校側の選定なのか。
事務局	アンケートに、「高校生の職場見学の受入れ可能」と回答があった事業所リストを学校に提供し、選定いただいている。
会　長	業種の偏りは生じてしまう可能性があるかもしれないが、うまく、裁いて頂けるとありがたい。
事務局	最後に、当会議中に提案された吉川美南高校の文化祭への出展は、委員3事業者に出展いただいた事業である。
会　長	事業としてはとても楽しかったという印象である。市職員が、来場者に声かけし弊社に興味を持って話を聞いてくれた。事前告知や誘導看板が無い中で、厳しい状況であったが、こういう場所であるからこそ、何か体験出来るブースがあっても良いと感じる。
	(2) 企業ガイドブックについて
事務局	令和5年度の産業振興会議の中で、塩入委員からガイドブックの刷新についてご提案を頂き、検討会議を開催した。会議の中では、未来を担う子どもたちが市内の産業を知ることができ、興味が湧くわかりやすい冊子を作ろうという方向性で、作成にあたっては、これまでの取材方式から、掲載する事業者自らがフォーマットに入力する方式として事業費を圧縮して、より多くの事業者を掲載

	する方向性が示されている。
会　長	この場で、新たな意見をというのは難しいと思うので、何かあれば、後程事務局までご意見いただきたい。
委　員	当初、デジタル化という部分を進めていくべきと感じていたが、限られた予算の中で、市としては、広く老若男女に発信していきたいという方向性がある中で難しいと感じ、紙ベースで行く方向性となった。今後という部分ではデジタル化は必要と感じている。また、少し話は変わるが、昨年の11月に佐賀県の企業誘致担当から声かけを頂き、視察を行った。視察した場所が、吉川市に似ており、人口が7万5000人で1時間圏内に福岡があり賑わってはいるが、地場産業が無く基本的には住宅街。課題としては、年間7,000人の若者が就職の際に、約7割が福岡に流れ人口が減少となっている。吉川市の子どもたちは、市内の企業を知らない。この情報の格差というのが課題ではないか。どこの県も同じような課題を抱えてる中で、吉川は、今動けば、決して遅くないと感じた。また、企業を誘致したくてもオフィスがなく、空き地に、ビルの誘致を進めているという話もあった。
市　長	吉川の場合は、一見すると土地はあるが、規制があり開発が出来ない状況である。ガイドブックについては、冊子を配れば子どもが見るかとなれば、今、タブレットを一人1台持っていて、ショート動画を作成した方が見るし、デジタルの方が人材確保や市のPRに繋がるのではないかという意見もある。また、的を絞らなければ、図鑑のようなものを作っても誰も見ないと考えており再度検討していきたい。令和8年が市制施行30周年なので、そのタイミングで発信できるよう準備していきたい。
	(3) シニア・ワークネットについて
事務局	市には吉川市民シンクタンク制度があり、市民目線で地域課題を提起し、調査分析を行い課題解決策を提言する制度がある。本日は、本制度を活用して提言され、内容が産業に関わる事であったため、事業者の皆様との意見交換の場として、本会議内で行うものである。説明は、提案者より行っていただく。
提案者	［提案者より別紙資料を用いて説明］
会　長	各社の事例を踏まえ意見交換できればと考えている。また、埼玉県にはシニア活躍推進宣言企業という認定制度もあり、そのあたりの切り口から意見を伺いたい。
委　員	弊社は、従業員が工場全体で約200人で、60歳以上が約10%である。産業廃棄物の中間処理事業者であり、ドライバーや作業等に従事している。新規雇用となると体力仕事であり難しく、経験者を継続して雇用している。作業員やドライバーが集まりにくいので、条

	件があえば採用したいが、管理職向けとなると難しいと感じる。
委　員	弊社では、定年を迎えた場合、若手の育成として継続雇用しており、新たに60歳以上の方を雇用するのは難しい。経験はあるが、健康のためという部分もあり、本人と現場の求める力など、熱意の差が一程度ある印象である。
市　長	市役所も今後定年が伸びていき、管理職が終わった後に再任用となっても、事務や現場の作業は難しいと感じている。
提案者	イメージとしては、これまで経験のあった業種ではなく、異なる業種に行くことで、その経験が活きると感じる。
会　長	市側は、斡旋業が出来ないので、ハローワークや民間企業になるのではないか。シルバー人材や民間の人材派遣会社のようなところに声かけは行ったのか。
提案者	私自身も登録しているが、どちらかというと広いエリアを対象としており、少しイメージが異なると感じている。
市　長	シルバー人材については、職種が限られて、駅前の清掃、街路樹の剪定、駐車場の整理等となっている。提案者がイメージする「活躍の場」という部分は必要性を感じているし、マッチングの場という部分でチャレンジしてみたいと感じている。
部　長	個別具体的な斡旋という部分は、市では行えないが、例えば、就職説明会や産業フェア等のイベントを通じて、紹介する場を設ける事は可能であり、そのような支援を行っていきたい。
市　長	メンバーの方々にそのようなイベントに出てもらい説明いただくことで、何か連携に繋がるのではないかと感じる。
副会長	弊社は、他の製造業の工場長であった方を70歳で雇用し、技術指導員として80歳まで雇用した。また、地域の中には、子どもたちのおもちゃの修理を行う技術者がいて、地域貢献につながっていると感じる。さらに、企業の困りごとみたいな形で、例えば工場内の清掃などを請け負う事業を立ち上げれば、企業のニーズがあるのではと感じた。
会　長	キーワードとして、様々な技術、経験がある集団なので「企業のなんでも屋」として事業を立ち上げるのは面白いと感じる。弊社でも、大抵の修理などは、経験のある高齢の従業員が行っているが、そのような人材が減っていく中で、ニーズがあるのではないか。
委　員	雇用した瞬間から、法律は弱者が守られるよう作られており、企業の6.2%しか生き残れないと言われている時代で、企業側はリスクとなってしまう。一方で、これからの社会で大切な部分であり、例えば、集まった仲間で、そのリスクをシェアし、全員を役員とすることで、利益をシェアできる仕組みを構築する。利益と責任をイコールとすることで、企業側と対等に行えるのではないか。どこかで、健康的な理由などを挙げてしまうと、企業側は使いにくいと感

	じてしまう。大変優秀な技術者が一部の方に足を引っ張られてしまう状況は避けなければならない。
委　員	総論としては賛同するが、一企業側としては、マッチングに課題があるものと感じた。企業側のニーズと団体側ができることを積み上げていく中で、可能性はあると感じる。
委　員	農業も人手は足りない状況である。高齢者の方は意欲はあるが、仕事は炎天下であり体力が必要であり、長く続かず、辞めてしまう方が多いというのが現状である。
提案者	実労働よりは、販路を拡大させたい、あるいは課題解決をしたいなどのスポット的な部分への派遣という考え方である。
副会長	専門的な助言者の派遣を活用したことはあるが、成果を上げることが出来なかった。それは、時代の流れの移り変わりが早く、うまくいかないと感じた。
会　長	その他ご意見等があれば、事務局を通じて団体に伝えていただきたい。
	４．その他
委　員	ふるさと納税の運営支援事業者で、自治体の歳入を大きく増やした事例がある。そういった事業者を吉川市も検討してはどうか。
部　長	ふるさと納税は、経費に占める割合が厳格に決められている。ご提案については、今後の参考とさせていただく。
事務局	令和8年度が市制施行30周年となる。何かアイディア等があればご提案頂きたい。
	５．閉会
副会長	活発な意見がある良い会議であったと感じる。引き続き、皆さんの想いを明日の吉川に集結できればと考えている。また次回もよろしくお願いする。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和７年２月２７日

署名委員　塩入　英明（自署）　　署名委員　川俣　雅代（自署）